

くすのき1・4組 自立活動学習指導案

1 題材 「社会性を高めるために、その場に応じたことばを使えるようになるう」

2 指導観

○ 社会生活において自立するためには、他者と意思の疎通を図りながら、生活に必要な収入を得るために就労し、得た収入で、生活に必要なものを購入するなどの活動を行っていく必要がある。その際、その場に適した行動や目的を達するために、他者と関わることが必要である。しかし、自閉・情緒学級に在籍する生徒は、心理的な安定・環境の把握・状況に応じたコミュニケーション力において課題を有しており、具体的には、言葉や表情、身振りなどを読み取り相手の思いや感情を受け止め次の行動に移すこと等を苦手としている。そこで、実際に学校以外の場所で社会体験を行ない、その経験をもとに将来の一場面を想定し学習することにより、労働の喜びを感じさせるとともに、相手の言葉や表情などから相手の要求を推測し、場に応じた会話をスムーズに行うスキルを身に付けることは、大変有意義であると考えられる。

○ 1年生のAさんは真面目で細かいことに気がつき、一対一では安心してスムーズな会話ができるが、自分の思いや伝えたいことが多く、相手の表情を受け止め会話をつなぐことを苦手としている。また、突然の計画の変更を受け入れることができない。入学当初は、交流学級で友達と過ごせていたが、交流がきつく感じる状態になりつつある。今は自信をつけさせ、会話のスキルを学びながら少しずつ友達とのコミュニケーションができるようにチャレンジしているところである。

Bさんは友達と関わることが大好きで、会話も集団の中でスムーズにできている。敬語や丁寧な言葉を使い、対応できるようになってきた。しかし、時々状況を読み取ることができず、その場にそぐわない発言をして周りを驚かせることがある。学習においては、覚えることが苦手であるが、繰り返し何度も書くことで覚えることができるようになってきており、徐々に自信をつけてきている。

Cさんは軽度の知的障害と選択制緘黙がある。友人や教師との会話もほとんどなく、日常生活でも、一人で買い物したり、お店で注文したりする経験はほとんどない。しかし、その時に何をするのか、どうしたらいいのかということは理解できているため、支援の仕方を工夫しながら、意思の疎通ができるようにするための取組を行っている。

○ 本単元は、自閉・情緒学級に在籍する生徒の「自立して生活するための力」をつけるための体験的な学習を行う。まず、本単元で行う活動やその活動の目的等について確認し、取組の計画をたてる。具体的には、将来の就労する場面として、たこ焼きの製造販売を設定し、収入を得るといふ活動を提示し、製造販売の計画を立てる。その際、得た収入を活用して社会見学に行くといふ目的を提示し、生徒の意欲の喚起を行う。

次に、製造販売を行う際に必要なたこ焼きの作り方や販売時のお客様への対応の仕方について確認する。その際、言葉遣いや表情に気を付けることを伝える。

さらに、たこ焼きの製造販売を行う。その際、生徒が段取り等について、確認ができるように支援カードを準備する。また、販売の様子を記録して、振り返りの際に提示し、生徒自身の販売時のコミュニケーションについて振り返り評価して、日常生活におけるコミュニケーションに生かしていくことについてまとめる。

さいごに、販売での売り上げを活用して社会見学を行う。販売で得た収入を基に、計画を立て、社会見学に行く。その際、レストランでのランチ学習を計画する。

3 単元目標

○自立活動としての社会体験で、駅での会話、食事や商品を購入する際の注文や支払いを体験し、スムーズなコミュニケーションの力をつける。(知識・技能)

○社会体験や調理実習を振り返り、仕事分担、言葉かけの改善を考える。(思考力、判断力、表現力等)

○場面、目的、相手に応じた挨拶や言葉・表現を遣うことができたか振り返り、次の活動にいかす。

(学びに向かう力、人間性等)

4 本時 令和元年11月15日(金) 第5校時 調理室において

(1) 本時の指導観

本時では、たこ焼きを作り、販売する活動を通して、生徒自身のコミュニケーションの様子を振り返り、社会生活で必要となるスキルを獲得する取組を行う。また、衛生的で美味しそうな商品を作るために自分の考えを伝え、困ったことも相手に伝わるようにさせる。お客さんへの販売の場面では、思考を補助する支援カードを事前に用意し、その場にあった言葉を選び対応できるようにする。また、まとめの段階では、自分を客観視することを苦手としている特性から、販売の様子を記録して、対応の仕方や表情の作り方が適切であったかを振り返らせる。相手との対応がより円滑に進むための言葉遣いやふさわしい態度ができていたかを自己評価し、日常生活の場において活用できるようにしたい。

(2) 本時の主眼

- ・言葉や表情に気をつけて、美味しいたこ焼きを販売しよう。

(3) 準備

- ・①たこ焼き器 ②たこ焼きの材料 ③調理器具 ④弁当パック ⑤お釣りのお金 ⑥計算機

(4) 展開 (ゴシック…思考ツールの活用場面)

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点 (方法)
つかむ	1 本時のねらいや方向性を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> たくさんの人に喜んでたこ焼きを買ってもらうためどんな言葉や表情をつくったら良いだろう。 めあて </div>	○本時の学習につなげるために前時までの学習の振り返りを行う。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> コミュニケーションをたくさんとり、美味しいたこ焼きを販売しよう。 </div>		
さぐる	2 たこ焼きの販売を行う。 (1)たこ焼きを作り、ラッピングする。 ・たこ焼きの作り方 ・ラッピングの方法 (2)お客さんにたこ焼きを販売する。 ・接客の仕方 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①相手の表情等を読み取る。 ②お金の扱い方 ③お礼のあいさつ </div>	○トッピングの種類ごとにパックに入れられたか確認できるように、 言葉や表情を書いた支援カードを準備し、提示する。 ○お客さんに喜んで買ってもらうようにするために、接客の仕方がわかる確認カードを準備する。 ○対応の様子を録画し、表情や言葉を確認する。	・作業を間違えず進むように相手の表情を確認し、相づちを打つことができる。(知・技)
	3 本時のまとめと振り返りを行う。 (1) 本時のまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 録画を見て、自分や友達の表情や言葉の使い方が適切であったか考えることができる。 </div> (2) 『思考力・表現力 up のためのスキル表』を活用し、学習の過程でわかったことやわからなかったことを書き、発表する。	自己内対話で目指す姿 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・Aさんがお客さんの顔を見て販売していたので見習おうと思いました。(共感) ・最初は声が小さかったけど、やりとりをしていく中で少しずつ声を大きくすることができた (修正) </div> ○自己内対話を促し、評価カードを使って発表させる。	・言葉遣いや表情について考え次に生かすことができる。(学)
深める			
見つけ直す			